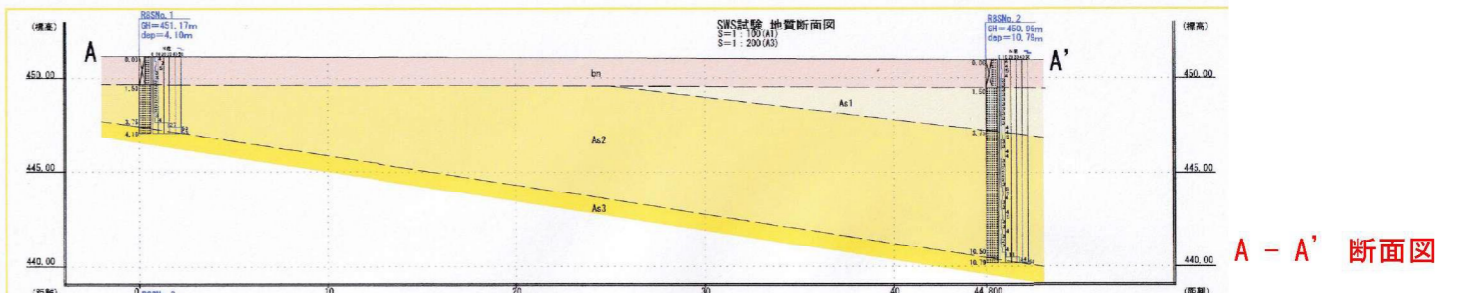
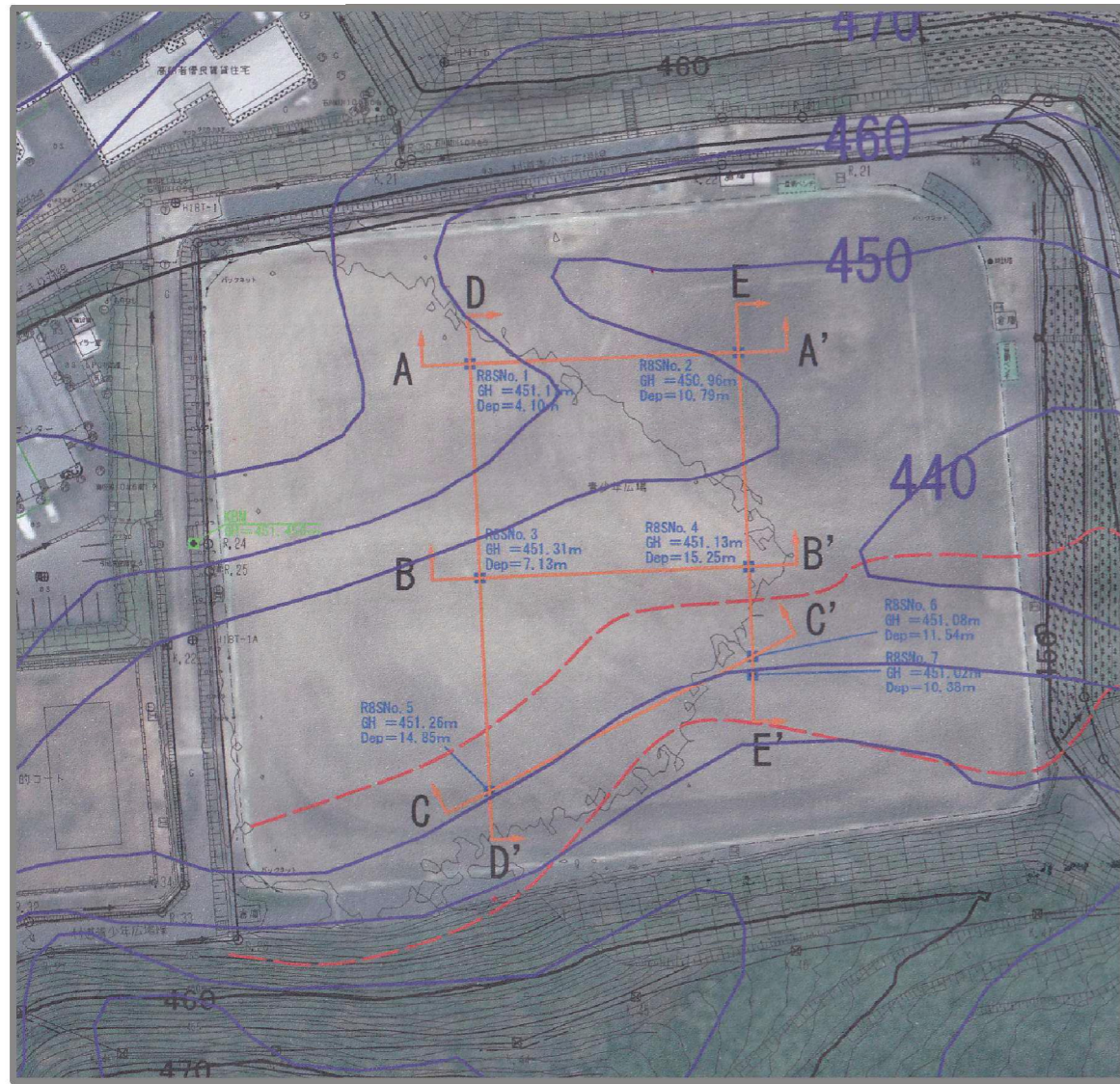
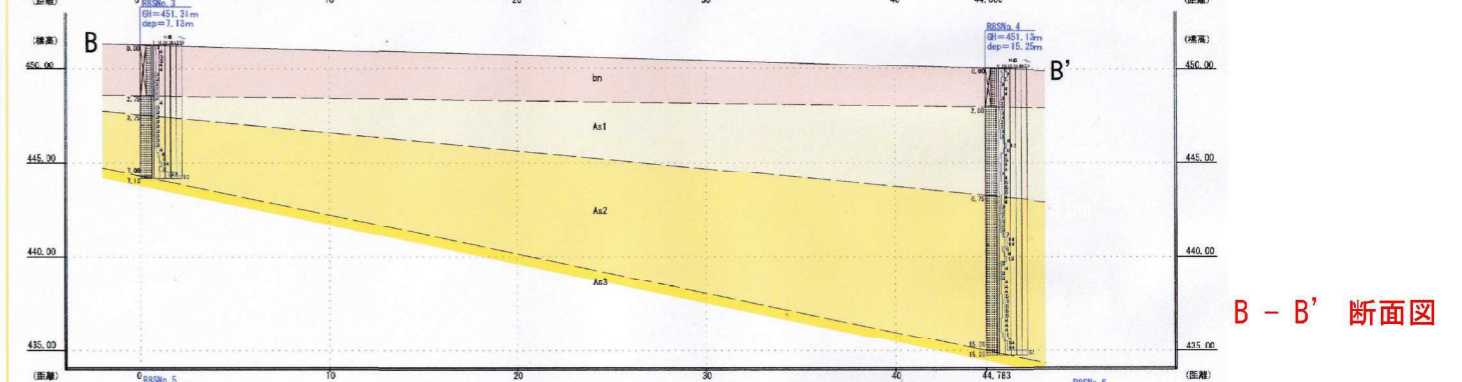


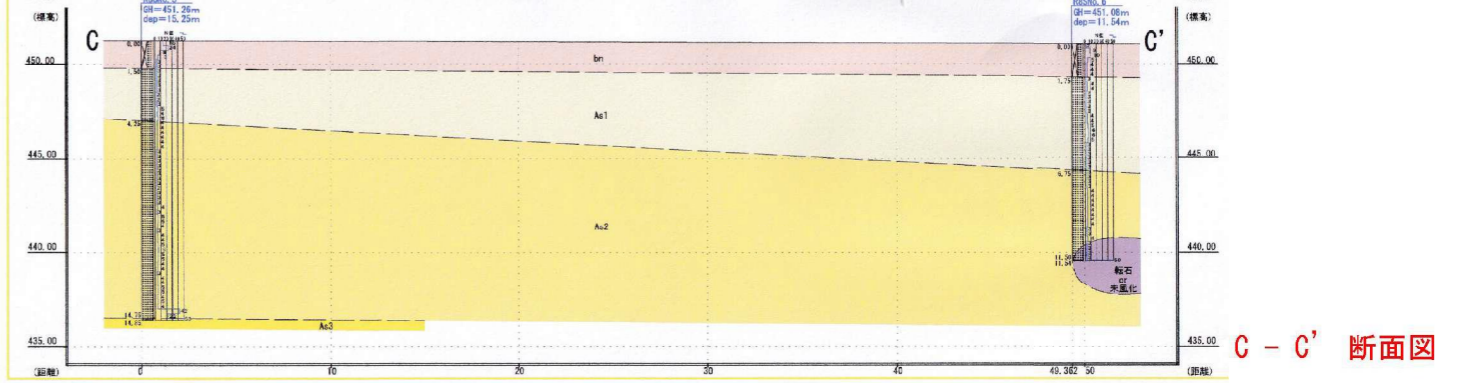
●検討資料①（地盤の特性について）



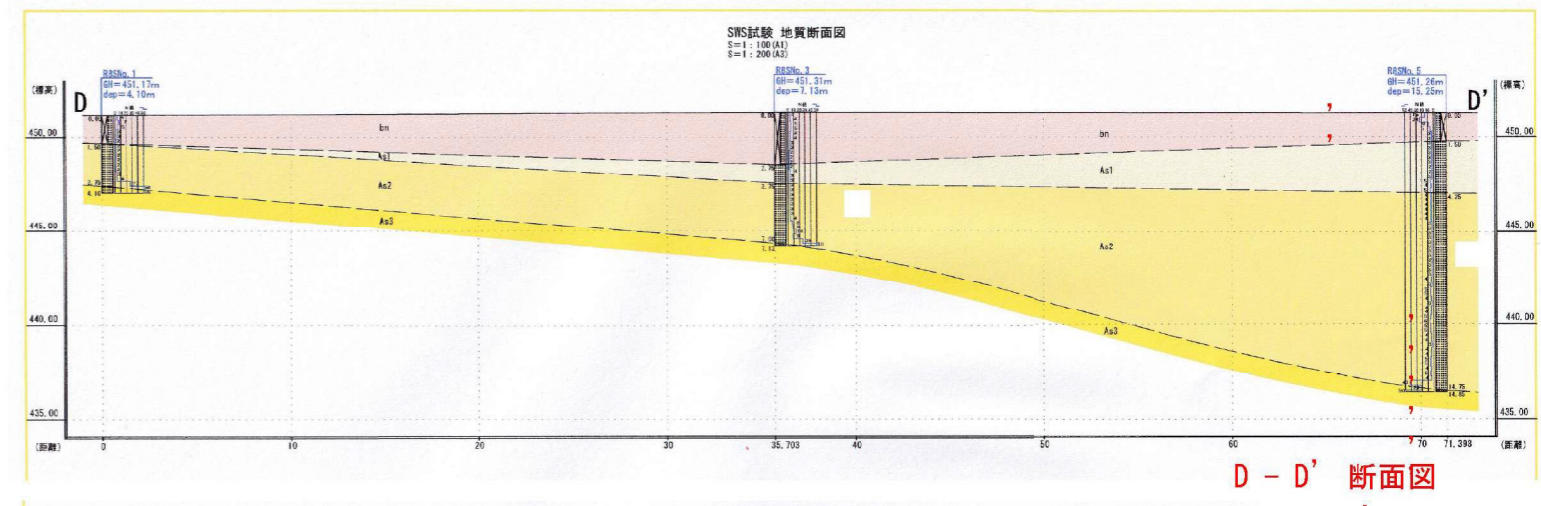
A - A' 断面図



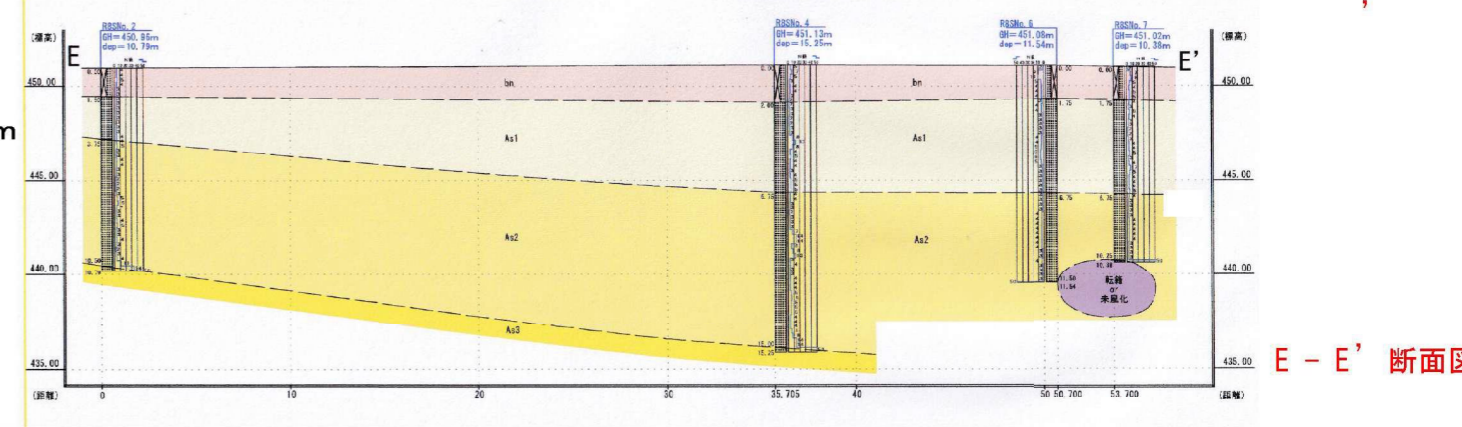
B - B' 断面図



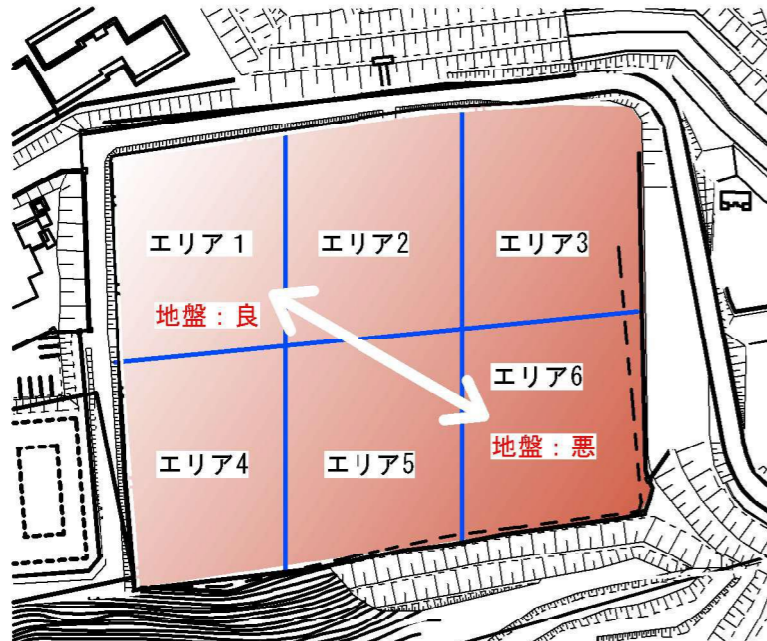
C - C' 断面図



D - D' 断面図



E - E' 断面図



・参考図より、旧等高線を反映。
 ・盛土は薄いと判断した。
 ・盛土層厚など地質についてはボーリング調査により確認することが望ましい。

地質名	地質記号	換算N値	備考
盛土 (砂質土)	bn	2~9 (一部10~24)	—
砂質土1	As1	2~8 (一部13)	自沈層あり
砂質土2	As2	2~26	N値30未満 (概ね砂質土と思われる)
砂質土3	As3	34~50	N値30以上 (概ね砂質土と思われる)
転石 or 未風化部	—	50 (打撃しても貫入不能)	転石あるいは未風化部と思われる。

地盤の特性として、支持層が約10~15m 南東方向に支持層は傾斜している。

- ①エリア1が支持層が浅く安定した地盤
- ②エリア3、6が支持層が深く建物配置において不利

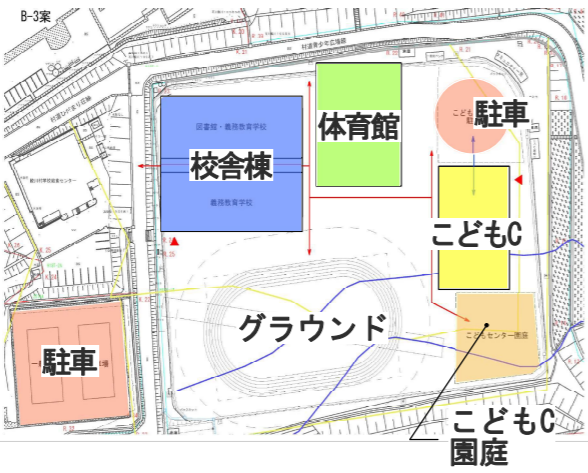


各配置計画に対する比較表

A～G案に対しての各項目比較①

計画案	A案（体育館：西・ こどもセンター2階建て）	B案（体育館：西・ こどもセンター2階建て同一棟）	C案（体育館：東・ こどもセンター平屋）	D案（体育館：西・ こどもセンター平屋同一棟）
配置計画				
特徴	体育館は西側に配置。校舎は敷地の中央北側に配置。こどもセンターは2階建てで東側に配置（校舎とは別棟）	体育館は西側に配置。校舎は敷地の中央北側に配置。こどもセンターは2階建てで東側に配置。（校舎とは同一棟）	体育館は東側に配置。校舎は敷地の西側に配置。こどもセンターは平屋建てで東側に配置。（校舎とは別棟）	体育館は東側に配置。校舎は敷地の西側に配置。こどもセンターは平屋建てで東側に配置。（校舎とは同一棟）
土砂災害危険区域 に対する比較	全ての建物が土砂災害危険区域外となっている。 評価 ○	全ての建物が土砂災害危険区域外となっている。 評価 ○	全ての建物が土砂災害危険区域外となっている。 評価 ○	全ての建物が土砂災害危険区域外となっている。 評価 ○
地盤特性上の比較	重量施設（体育館、校舎）がエリア1、2で有利。軽量施設（こどもC）は不利地盤エリア3に建設。かつ2階建てで荷重増。 評価 △	重量施設（体育館、校舎）がエリア1、2で有利。軽量施設（こどもC）は不利地盤エリア3、かつ2階建てで建設するためさらに不利。 評価 △	重量施設（体育館、校舎）がエリア1、2で有利。軽量施設（こどもC）は不利地盤エリア3、4に建設。（平屋建てのためA、B案に有利） 評価 ○	重量施設（体育館、校舎）がエリア1、2で有利。軽量施設（こどもC）は不利地盤エリア3に建設。平屋建てであるため有利。 評価 ○
法規上（消防法）の比較	各棟は別棟であるため消防法の適用（特にスプリンクラー）の設置は不要。 評価 ○	校舎とこどもセンターは同一棟のため消防法（スプリンクラー）の設置が必要。 評価 △	各棟は別棟であるため消防法の適用（特にスプリンクラー）の設置は不要。 評価 ○	校舎とこどもCは同一棟のため消防法（スプリンクラー）の設置が必要。 評価 △
配置計画に対して比較① （体育館の位置）	西側配置のため、施設側への日影の影響はない。長軸は南北ではあるが、西側隣地への影響は発生。 評価 △	西側配置のため、施設側への日影の影響はない。長軸は南北ではあるが、西側隣地への影響は発生。 評価 △	北側配置のため、施設側への日影の影響はない。長軸は東西ではあるため、北側道路への影響が発生。校舎棟、こどもCからの利用が容易。 評価 △	北側配置のため、施設側への日影の影響はない。長軸は東西ではあるため、北側道路への影響が発生。校舎棟、こどもCからの利用が容易。 評価 △
配置計画に対して比較② （こどもセンターの位置）	東側に配置することで駐車場の確保が容易。ただ2階建てのため、地盤への影響が大きい。（基礎が過大になる。） 評価 △	東側に配置することで駐車場の確保が容易。平屋建てのため、地盤に対して有利である。 評価 ○	東側に配置。平屋建てではあるがエリア6にも一部配置することで基礎形状が変わる可能性が発生する。 評価 △	東側に配置。平屋建てではあるが施設形状が東西に長くなり、駐車スペースの配置で不利となる。（スペースが狭い） 評価 △
配置平面計画に対して比較 （義務教育学校）	正方形に近い形状だが、別棟での建設のため中庭等を設置することで採光は確保出来る。各棟と近接する。 評価 △	採光は確保可能だが、こどもCと同一棟のため、利用法に検討が必要。スプリンクラーの設置が必要。 評価 △	正方形に近い形状だが、別棟での建設のため中庭等を設置することで採光は確保出来る。他施設との距離も取りやすい。 評価 ○	採光は確保可能だが、こどもセンターと同一棟のため、利用法に検討が必要。スプリンクラーの設置が必要。 評価 △
総合評価	各棟の配置は理想的。こどもCが2階建てでかつエリア3での建設のため基礎構造が不利となる。 評価 14点	各棟の配置は理想的。こどもCはエリア3に配置となり、2階建てであるため不利である。 評価 14点	校舎棟が西側配置で日影が懸念されるが、各棟の間隔が取りやすく緩和可能。こどもCはエリア3、6にかかるが平屋建てで建設可能。 評価 16点	こどもCは平屋建てでエリア3のみでの配置が可能だが東西に長く、校舎棟と一体となり、消防法上不利である。 評価 14点

各配置計画に対する比較表

A～G案に対しての各項目比較②

計画案	E案（体育館：敷地中央北側・ こどもセンター平屋建て）	F案（体育館：敷地中央・ こどもセンター平屋建て）	G案（体育館：敷地西校舎一体・ こどもセンター平屋）
配置計画			
特徴	体育館は敷地中央北側に配置。校舎は敷地西側に配置。こどもセンターは平屋建てで東側に配置。	体育館は敷地北側に配置。校舎は敷地西側に配置。こどもセンターは平屋建てで西側に配置。	体育館は敷地西側に配置し校舎と一体で配置する。こどもセンターは平屋建てで東側に配置。
土砂災害危険区域 に対する比較	全ての建物が土砂災害危険区域外となっている。 評価 ○	全ての建物が土砂災害危険区域外となっている。 評価 ○	全ての建物が土砂災害危険区域外となっている。 評価 ○
地盤特性上の比較	重量施設（体育館、校舎）がエリア1、2で有利。軽量施設（こどもC）は不利地盤エリア3、4に建設。（平屋建てのためA、B案に有利） 評価 ○	重量施設（体育館）はエリア2に配置されるが、校舎はエリア3に配置であり、基礎選定で不利。 評価 △	重量施設（体育館、校舎）がエリア1、2で有利。軽量施設（こどもC）がエリア2、3にまたがり不利（平屋建てのためA、B案に有利） 評価 △
法規上（消防法）の比較	各棟は別棟であるため消防法の適用（特にスプリンクラー）の設置は不要。 評価 ○	各棟は別棟であるため消防法の適用（特にスプリンクラー）の設置は不要。 評価 ○	各棟は別棟であるため消防法の適用（特にスプリンクラー）の設置は不要。 評価 ○
配置計画に対して比較① （体育館の位置）	敷地中央配置だが長軸は南北であり、他案と比較し隣地への影響は少ない。施設群の中央であり、利便性は高い。 評価 ○	敷地中央配置だが長軸は東西であり、北側への影響が懸念される。 評価 △	北側配置のため、施設側への日影の影響はない。長軸は東西ではあるため、北側道路への影響は大きい。 評価 △
配置計画に対して比較② （こどもセンターの位置）	エリア3、6にまたがるが平屋建てにすることで緩和可能。南側に配置する事で北側に駐車スペースの確保が可能。 評価 ○	平屋建てでエリア1に配置で有利だが土砂災害危険区域に近接する。西側配置のため送迎動線が長く駐車場の確保で不利。 評価 △	東側に配置。平屋建てであり、東西に長くなるが北側に駐車スペースの確保は可能。 評価 ○
配置平面計画に対して比較 （義務教育学校）	正方形に近い形状だが、別棟での建設のため中庭等を設置することで採光は確保出来る。他施設との距離も取りやすい。 評価 ○	正方形に近い形状だが、別棟での建設のため中庭等を設置することで採光は確保出来る。地盤で不利なエリアでの建設となる。 評価 △	体育館との一体的な整備のため、中庭の確保が困難。体育館が発生する音の問題等が懸念される。 評価 △
総合評価	各棟は分散して配置するため、日影の影響は緩和される。こどもCが一部エリア6に及ぶことが懸念される。 評価 18点	校舎棟がエリア3に配置され基礎の過大化が懸念される。またこどもCの送迎動線が長く、他案と比較し不利である。 評価 14点	体育館と校舎棟の一体化により採光が片側から取れないことによる建設不可能の場合がある。体育館と校舎で混構造となり大幅なコスト上昇の恐れがある。 評価 15点